

(様式4)

平成27年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

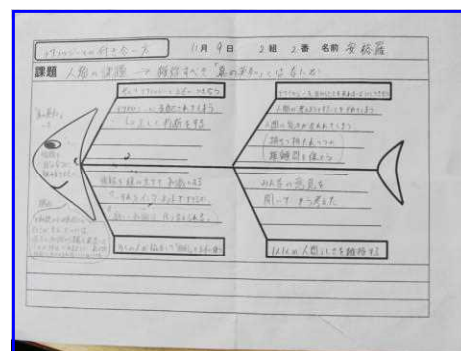
日立市立滑川小学校 教諭 砂押 秀明

- 1 派遣期日 平成27年11月10日(火)
- 2 学校名(会場名) つくば市立春日学園  
所在地 茨城県つくば市春日2丁目47番地  
<http://www.tsukuba.ed.jp/~kasuga/>
- 3 研修内容
  - (1) 12時30分～13時00分 受付
  - (2) 13時00分～13時40分 オリエンテーション
  - (3) 13時50分～14時40分 授業公開1
  - (4) 15時00分～15時50分 授業公開2
  - (5) 16時00分～16時30分 全体会

#### 4 感想

##### (1) 思考スキル・思考ツール

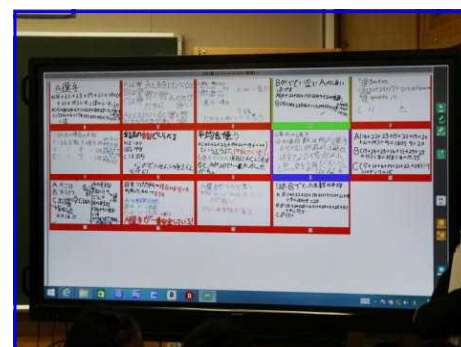
春日学園では、学年や各教科ごとに思考スキルの系統表をつくり、身に付けるべき思考スキルを、小、中学校の9年間を通して計画的に身に付けていく仕組みが構築されていた。また、これらを身に付けるための思考ツールが豊富で、各学習活動に取り入れられていた。これらの取り組みを軸に、さらに ICT を活用することで学習活動をより効率的にしていると感じた。



思考ツール(フィッシュボーン)

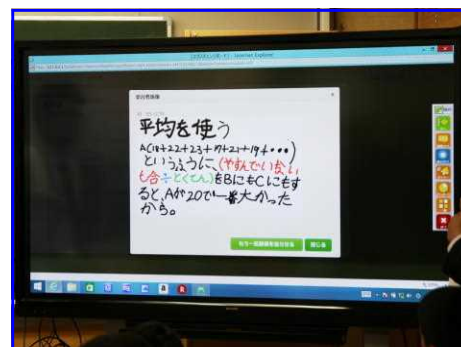
##### (2) 学習ツールとしての ICT

まず、教師も児童、生徒も、タブレット型端末や電子黒板などの ICT 機器を学習ツールとして、十分に使い慣れているという印象を受けた。教師側としては、まず学習指導案に「本時における ICT 活用の効果」が明記されていた。これにより、ICT 機器の活用でどのような学習上の効果を狙うか(興味・関心の向上、他者の考えを理解しやすくする、班の結果や考察を全体で共有する、など)、目的を明確にし、それを実現するための学習ツールとして活用することができていると感じた。そのため、公開授業では、必要以上に ICT 機器に頼るのではなく、まずねらいがあり、それに対して ICT 機器の効果的な活用があり、適材適所で機器を活用し、ノートやプリント、掲示物や黒板などと併用して授業を構成していた。



考え方を種類別に色分けして表示

児童、生徒は、直感的にタブレットを操作している様子であり、スムーズであった。操作について質問する場面はほとんど無く、自然にノートやプリントに並ぶ学習のツールとして活用している印象であった。



電子黒板による個人の考え方のピックアップ

##### (3) 電子黒板と黒板の使い分け

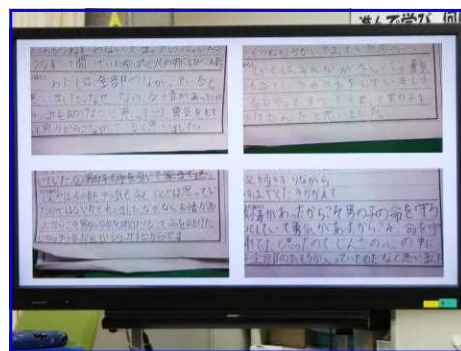
電子黒板と黒板を用途に合わせて使い分けている、または併用している様子が見られた。使い分け方としては、児童、生徒の考えを広めたり、比べたり、または、意見の種類ごとに色分けをしたりするときは電子黒板を使用し

ていた。それに対し、教師が児童、生徒の意見を教師主導でまとめたり、授業の流れや課題の取り組み方を提示したりするときには黒板を、それぞれ使用している様子が見られた。

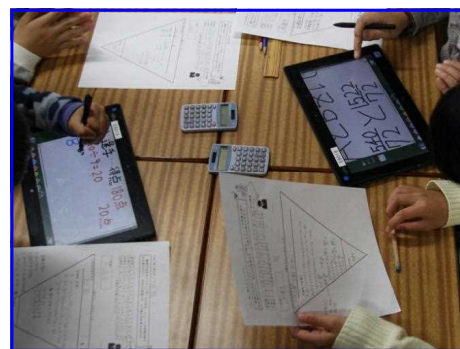
#### (4) タブレットとプリントとの使い分け

タブレットは、電子黒板とリンクさせて使うことで、児童の回答や筆記した画面がすぐに電子黒板に表示できることから、電子黒板とセットで使用する場面がよく見られた。グループに1～2台用意し、話し合いの結果を書き込んだりするような、小黒板のような使い方や、個別で考えを書いて全体で回答を検討する、クイズ番組ののパネルのような使い方が見られた。

それに対して、プリントは、思考ツールを使用する学習活動によく使用していた。また、児童、生徒は、タブレット端末を使い慣れているのは間違いないが、文章や表を書くときには、時間がかかり、プリントを使用した方が書きやすい様子も見られた。



考え方の比較



タブレットと思考ツールのプリントの併用

#### (5) youtube を使った予備学習

児童は学校の授業の前に家庭で動画を視聴し、あらかじめ基礎の学習を済ませておく。学校では、その基礎を踏まえ、発展的な課題に取り組む、というものであった。すでに長方形の基本的な面積の求め方を理解した状態で授業が開始され、応用的な課題を中心に取り組んだ。youtube を視聴できる環境をもたない児童には教材の動画を入れた DVD を配付することで対応しているとのことであった。



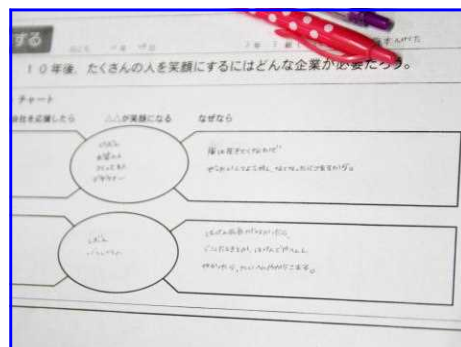
家庭での予備学習用の動画

#### (6) まとめ

ICT 機器を学習活動に取り入れていくにあたって、ICT 機器に期待できることは、学習の効率化の部分であると感じた。それには教師側の十分な研修や相互の交流、授業を重ねて児童、生徒もツールとして使い慣れることが重要である。さらに、学校や市で全体的、継続的に機器の活用に取り組むことが必要であると思う。youtube を使った予備学習や、youtube を見られない児童への対応からも分かるとおり、教師側の十分な準備が必要となるものもあり、労力と効果をよく検討して適材適所での活用を行う必要を感じた。また、ICT 機器の活用以外の取り組み（思考スキル・思考ツール）について、児童、生徒の「考える技」「考える道具」として生きており、ぜひ自分の学習指導にも活用していきたいと感じた。これまでの学習の機器と今後活用の幅が増えるであろう ICT 機器をバランス良く取り入れ、より効率的に学習活動が行えるよう、研修をすすめていきたい。



黒板も電子黒板と並行して活用



プリントによる学習